

は極めて明かであつたらしい。

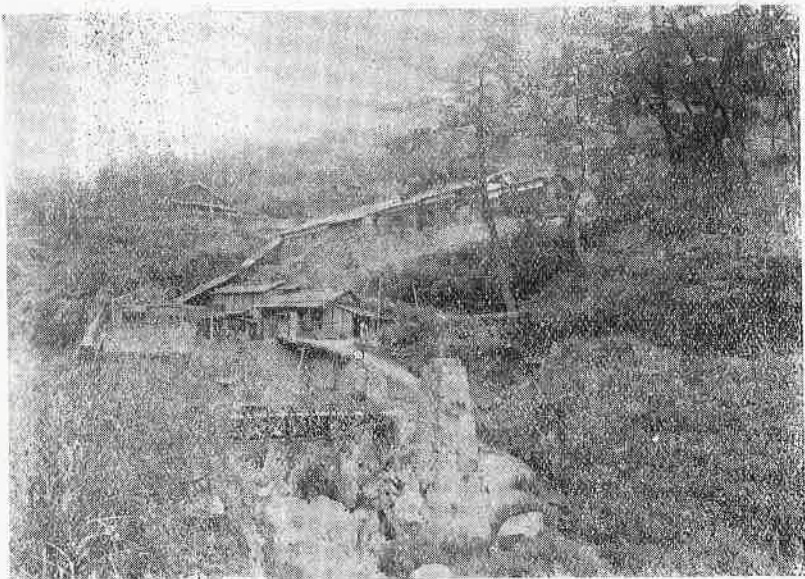
粉車 燈油が各地で製造されると共に、一方明治以後石油の輸入で行燈が洋燈に代るやうになり、油水車も漸次衰へるに従ひ、粉車として水力は昔ながらに利用せられ主として素麵用の小麦粉を製造した。當時出稼の職人は、播州方面が多数を占めてゐたが、彼等が漸次素麵の製法を見習ふに至るや、一労働者としての身分に甘んぜず、自らの地方で自作の小麥を以て所謂播州素麵を製造するやうに成り、其他の地方でも同業者が多数現はれるに及び稍下火と成つた。

尙粉車として特に注目すべき事は、明治維新前、火薬製造の原料を此の水車を利用して製したといふ事であるが一日爆發事件があつて以來、其の事は行はれなく成つたと言はれてゐる。

米車 粉車としての前途漸く暗きを覚える時、日露戦争後の國力の發展に伴ひ、明治四十年前後より酒造界が頗る活況を呈するや、精米水車として、大正の中頃まで非常に盛大を極めた。即ち本村に於ける水車棟數八十餘其の据附の石臼の數が約壹萬に及び従業員も壹千名を算する有様であつた。有馬越の旅人は、道々ゴットンくつてふ杵の音や、労働者のさびのある唄聲を聽いて旅情を慰めたものであつた。それに就いても、此の多數の従業員を相手に、いかゞはしい女共が出入した事は、古老の一口嘯として残されてゐる。

さて酒造用精米、水車の活動は冬期であつて、村の水利組合では春の彼岸から秋の彼岸迄は田畑の用水として谷水を引き、秋の彼岸から翌年の春の彼岸へかけては、専ら水車用水として大體区分されてゐた。此の水車の労働者は十五歳から五十歳前後までで、労働日數は大體七十日から百日位、そして晝夜交代で盛んに精白に従事したが、その一日の労働賃金は大正六、七年の頃で食事附平均五十五錢と見えてゐる。

次に動力としての谷水に就いて見ると、東谷の水量は一時に約參百本、西谷のは約貳百本以上の杵を動かす力があるので、此の水力を少しも無駄に流す事なく、漸次下流の水車小屋へ引受けて、よく壹萬本近い杵を廻轉せ



(五 輛 場)

しめた。此の水車の廻轉數は一分間三十五、六回で最初酒造用の米は此處で一晝夜間搗いた精白米を以て充てたが、後酒質を競ふに至るや、二晝夜も要して精白の度を高めたといふ。

初其の玄米・白米の運搬は専ら牛の力を藉り、所謂ごろた車や牛車で急な坂道を上下したもので、慣れない牛であると、二、三俵位しか牽けず餘程慣れたものでも五、六俵を限度としたといふ。各地から住吉驛へ送られた玄米を水車へ運び、更になら精米を積んで酒藏へ下る。

此の運搬に従事した者を小あげ仲間と稱した。そして此の小あげ仲間がごろた車を牽いて通つた有馬道等を通稱ごろた道とも稱へた程、その往來は頻繁であつた。

此のごろた道は破損が甚だしい爲、毎年小あげ仲間から半一頭につき幾圓といふ割で出金して、道直しをしたものであつた。

大正十年前後より發動機による精白が盛に成る

四、油類 (菜種油・棉實油、其他)

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治三十五年	一〇五石	一、八二二	大正元年	二〇四石	六、九八四
同 三十六年	一八〇石	三、六〇〇	同 二年	四一〇石	一五、三七三
同 三十七年	三〇七石	八、九四三	同 三年	四一〇石	一四、七七三
同 三十八年	二九七石	八、四一五	同 四年	二〇二石	七、七七七
同 三十九年	三二四石	八、七一一	同 五年	七一五石	三九、九九四
同 四十年	七四石	二、〇八九二	同 六年	九六八石	五二、五八二
同 四十一年	三八三石	九、九九〇	同 七年	九五八石	八五、九六一
同 四十二年	五一一石	一三、四四三	同 八年	五、七七二石	一六一、四九七
同 四十三年	三一七石	八、〇四二	同 九年	二、五五六石	一七四、〇二〇
同 四十四年	三一七石	一、七六五	同 十年	三、一九二石	一三六、四三七
同 四十五年	三〇四石	九、二一七	同 十一年	二、九二六石	一六七、〇七二
同 四十六年	二〇〇石	六、七九六	同 十二年	三、一三九石	二三四、一二〇
同 四十七年	二一六石	七、四四一	同 十三年	二、七七五石	二四七、七六七
同 四十八年			同 十四年	二、四二〇石	二〇八、九七三

五、人造肥料 (植物性)

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治三十八年	一三七、九三九貫	二一、八六三	同 四十二年	一六、五三五貫	一、三三八
同 三十九年	二〇、八八五貫	一、六二六	同 四十三年	二〇四、二二八貫	二五、〇七三
同 四十年	三六、二五〇貫	三、八七〇	大正元年	三〇三、一四〇貫	四一、六六一
同 四十一年	三〇、三五〇貫	一、三六〇	同 二年	二一、七三九貫	四五、八〇四

年次	數量	價額	年次	數量	價額
同 三三年	四八三、七九四貫	八〇、六九二	同 九年	二二〇、〇八〇貫	五五、二一〇
同 三四年	一二五、一四〇貫	二二、五二五	同 十年	二四二、六四五貫	四三、八六一
同 三五年	一六四、八三三貫	三六、三五二	同 十一年	二〇八、一四八貫	四六、八二〇
同 三六年	二一〇、九三九貫	五〇、六二二	同 十二年	二二二、六六三貫	六三、五九六
同 三七年	一〇〇、五六〇貫	三七、七五六	同 十三年	二二九、〇四四貫	六八、三八〇
同 三八年	一五九、九一九貫	六八、〇五六	同 十四年	二二二、三〇四貫	六三、八四六

六、瓦

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治三十九年	八二、〇〇〇ヶ	二、二〇〇	明治四十一年	九〇、〇〇〇ヶ	二、二五〇
同 四十年	一〇〇、〇〇〇ヶ	三、〇〇〇	同 四十二年	一〇、〇〇〇ヶ	二八〇

七、素麵

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治三十五年	三、〇〇〇貫	六、〇〇〇	明治三十五年	五、五〇〇貫	二、二〇〇
同 三十六年	二、〇〇〇貫	五、六〇〇	同 三十六年	五、五〇〇貫	二、二〇〇
同 三十七年	六、〇〇〇貫	三、四〇〇	同 三十七年	五、二〇〇貫	二、一三二
同 三十八年	四、一六三貫	一、四九八			

八、護謄製品

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治三十七年	不詳	三〇、〇〇〇	同 三十九年	同	三五、〇〇〇
同 三十八年	同	三二、〇〇〇	同 四十一年	三五、〇〇〇ヶ	一〇〇、〇〇〇